当院ヘリポートの除雪について

当院では、島根県からの要請により、防災ヘリコプターによる島根県西部地域からの傷病者の病院間搬送を当院医師が搭乗し行っています。また、ドクターヘリによる島根県内の救急患者も積極的に受入れ、ヘリ搬送による患者受入れは年間130件あります。

ヘリコプターの円滑な運航のため、今季は期間（12月下旬～2月下旬の土曜・日曜・祝日等）を定め、当院ヘリポートの積雪時の除雪作業を外部委託しましたが、平日の除雪は、天候に応じ、事務局職員20名程度が協力して行っています。今後は、職員が除雪機操作の講習を受け、より一層円滑なヘリ運航を目指します。

また、島根県からの夜間も含めた24時間体制による患者さんのヘリ搬送の要請を受け、ハード・ソフト両面の整備が整い次第、夜間の患者搬送も実施します。

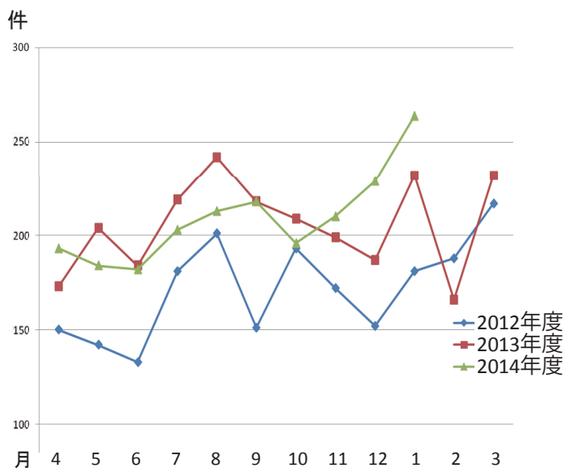
救命救急センターの最近の動向について

救命救急センター長　仁科（にしな）　雅良（まさよし）

先生方には平素からたいへんお世話になっております。私ども救命救急センターとして地域住民の安全・安心に貢献できるよう日夜努力いたしております。地域の医療機関からのご紹介には可能なかぎりおこたえいたしておりますので、お気軽にご連絡ください。また限られたスタッフであり至らぬ点も多いと思います。お気づきの点がありましたらお知らせください。

救命救急センターの患者数は年間約12,000人、救急車受入台数は年間約2,400台です。しかし少しづつ増加しており、平成27年1月は264台の受入でした。今後ともよろしくお願いいたします。

月・年度別救急車受入件数



Vol.17 2015 03 島大病院ニュース
平成27年3月発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2015年 3月 Vol.17

NEWS

CONTENTS

常に最高の手術医療環境を提供するプロ集団

手術部　部長　佐倉（さくら）　伸一（しんいち）

・当院ヘリポートの除雪について
・救命救急センターの最近の動向について

常に最高の手術医療環境を提供するプロ集団

手術部　部長　佐倉（さくら）　伸一（しんいち）

手術部紹介

病院に入院される患者さんの約半数の方が手術部で治療を受けると言われています。したがって、個々の患者さんが手術室で過ごされる時間は限られていますが、手術室環境の充実は病院全体を代表するものであるとも考えることができます。

手術部は、C 病棟の 3 階に位置し、10 室の手術室を備えています。県内唯一、ダ・ヴィンチ手術、小児心臓外科手術に対応している施設です。

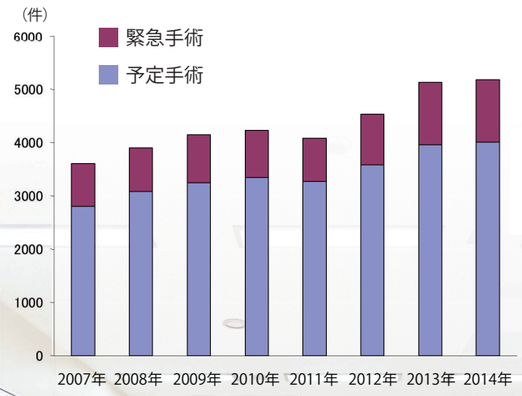
また、当手術部では新病棟スタートと同時に、安全性の向上、品質管理とその保障、業務改善を目的として、「鋼製小物個体管理システム」を世界で初めて導入しました。そして、器械洗浄滅菌などの材料部業務及び手術部での清掃、器械準備などの業務が外部委託となりました。それらのことで、看護師は看護師本来の手術看護業務に専念できるようになりました。

構成職員

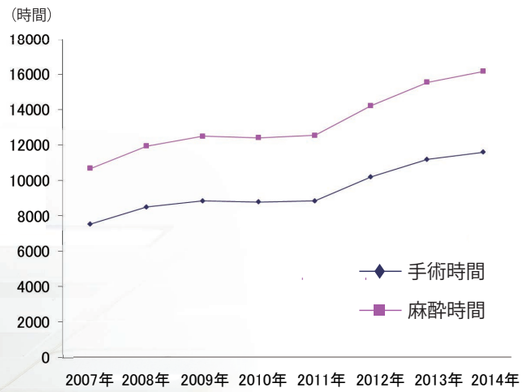
部長	1
看護師長	1
副看護師長	2
看護師	29
看護助手	5
臨床工学技士	3
診療放射線技師	1
クラーク	2
外部委託職員	11

手術部には、手術部長はじめ、看護師長、副看護師長（2 名）、看護師（29 名うちパート勤務 3 名含む）、看護助手（5 名）などの職員がいます。そして、臨床工学技士、診療放射線技師、薬剤師、外部委託職員など、常に多職種で協力し合い、チームワークよく働いています。特に、看護師は固定チーム制を取り入れ、それぞれが役割を持ち、専門性を発揮しながらチーム活動に取り組んでいます。その取り組みの一部を紹介したいと思います。

手術件数



総手術・麻酔時間



グラフの説明

手術を受ける患者さんの数は年々増加傾向にあります。同時に、各手術が高度化および長時間化しているので、手術部が稼働している時間も年々増加しています。

問合せ先　手術部　TEL 0853-20-2430

手術時のポジショニングとスキンケアを中心とした取り組み

手術部　副看護師長　山﨑（やまさき）　祐子（ゆうこ）　写真左
（皮膚・排泄ケア認定看護師）

褥瘡発生は病院の質を問うクリニカルインディケーターとして位置づけられる中、周術期の褥瘡対策は特に行き届かない聖域として喫緊の課題といわれています。手術部では、多職種と協働しながら、より専門的に皮膚障害予防を実践するとともに、一歩進んで科学的検証を行い学問としての取り組みを目指しています。

手術中の褥瘡予防は、ずれを排除し体圧を分散させることに他ならず、医療者の手に大きく委ねられます。そこで当手術部では、体圧分散用具について素材の違いによる比較検討や臨床データを集積し、自施設のエビデンス構築に積極的に取り組んでいます。このような取り組みは、各診療科医師や院内褥瘡対策委員などと連携しチーム医療を推進しています。

平成 26 年度日本手術看護学会島根分会第 2 回研修会では、当院手術室を研修会場に設定し、手術室での褥瘡対策をテーマにポジショニングとスキンケアについて講義とデモンストレーションを行いました。手術体位で生じる応力とケアを科学した内容であり、参加者全員が今後の活動に活かすことができると好評でした。当手術部で根付く“考える看護”が形になり、地域に発信される機会となりました。また、術創以外の傷をつくらないことを手術チームの共通ゴールとし、患者さんが皮膚を露出する手術室だからこそ実践できる予防的スキンケアにも力を入れています。

患者さんにとって手術はあくまでも通過点であり、手術室で二次障害を防ぐことが術後の経過や QOL、医療者との関係を左右することを忘れてはならないと日々感じています。手術の手技上仕方ないと考えるのではなく、常にアカデミックなマインドを持ち、今後も医療チーム全体で進化し続けるよう、活動していきたいと思います。

手術部を中心とした周術期管理チームの活動

手術部　副看護師長　園山（そのやま）　雅子（まさこ）　写真右
（手術看護認定看護師）

術前入院期間の短縮や手術件数の増加で患者情報の収集は非常に難しくなっています。また、患者さんやご家族に早期から接触しオリエンテーションを行う機会も少ないことから、手術患者さんの心身の準備不足が懸念されています。患者さんが手術による恩恵を十分に受けるためには、術前の十分な準備はもとより、直前の手術中止や延期の回避、合併症の早期対応、医療者間の情報共有が重要であり、良質な術後経過をたどることが求められています。

昨年末より食道手術を受ける患者さんを対象に、麻酔科、薬剤部、リハビリテーション部、歯科口腔外科、栄養治療室、手術部看護師が連携した周術期管理チーム活動をはじめました。そのなかで手術室看護師は、手術当日の流れや手術体位等について説明を行い、手術や麻酔に関する思いを傾聴し支援を行っています。術後に自分の身に起こることが想像でき、コントロールできる感覚を持てるような介入を心掛けています。

まだ試行段階であり、本格稼働に向けて様々な課題があります。今後も検討を重ね、質の高い周術期医療、看護の提供を目指していきたいと考えています。

島大病院ニュース
2015年3月

お知らせ

出雲市乳がん検診、乳腺ドックを始めます

乳腺・内分泌外科　百留（ひゃくどみ）　美樹（みき）

乳がんはここ30年で5倍に増加し、非常に身近な病気になっています。そのため、「友達が乳がんになったから心配になって」、「乳がんにかかった芸能人の体験談を聞いて」と、乳がん検診を希望される方が増えています。40歳以上の方が、検診を希望される場合、出雲市乳がん検診を少ない自己負担で受けていただくことができます。しかし30代の方は、この対象となりませんので、ご自分でドックを受けていただくほかありません。30代の乳がんは決して稀ではないのです。

幅広い年代に対応するため、当院では、出雲市乳がん検診のに加え、乳腺ドックを開始します。乳腺ドックは視触診とマンモグラフィを基本として、乳房超音波検査を行います。30代の方だけでなく、より精密な検査をご希望の方にもおすすめです。

	出雲市乳がん検診	附属病院乳腺ドック
日　時	毎週木曜日　8時半～10時半	毎週水曜日　8時半～10時半
対象者	出雲市にお住まいの40歳以上の女性（隔年）	ご希望の方
内　容	視触診・マンモグラフィ　（乳房超音波不可）	視触診・マンモグラフィ・乳房超音波
費　用	40歳以上：1,230円 50歳以上：920円 70歳以上：無料 **40歳の方には無料クーポンがあります**	視触診＋マンモグラフィ：6,825円 乳房超音波：3,780円 視触診＋マンモグラフィ＋乳房超音波：9,545円
結　果	約1ヶ月半後、出雲市から郵送されます。	当日乳腺専門医による結果の説明があります。異常があった場合は、速やかに精密検査に移行します。

マンモグラフィ撮影は女性技師が、視触診、乳房超音波検査は女性医師が行います。

問合せ先　地域医療連携センター　TEL：0853-20-2061

お知らせ 島大病院ニュース
平成27年3月発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース
2015年3月

お知らせ

化学療法レジメンオーダ時における B型肝炎ウイルスの再活性化予防を目的としたシステムを稼働しました

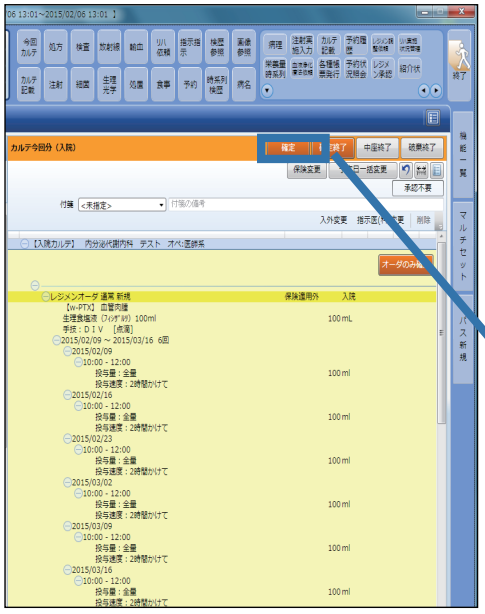
肝臓内科　診療科長　佐藤（さとう）　秀一（しゅういち）

B型肝炎再活性化とは、肝機能異常のないB型肝炎ウイルス（HBV）キャリアから、さまざまな誘因でHBV再増殖によって肝炎が再燃するもののことをいいます。このうち、HBs抗原が陰性の既往感染者からの再活性化は“de novo B型肝炎”といわれています。免疫抑制療法や化学療法の結果、引き起こされることがある「B型肝炎ウイルスの再活性化」は、劇症化すると救命が極めて困難です。

日本肝臓学会において再活性化の予防策が記載されたガイドラインが作成されていますが、免疫抑制療法や化学療法を施行する診療科は様々であり、「HBs抗原が陰性ならHBV感染は否定される」という認識をもたれている先生も多いことから、予防策の浸透が難しい状況です。

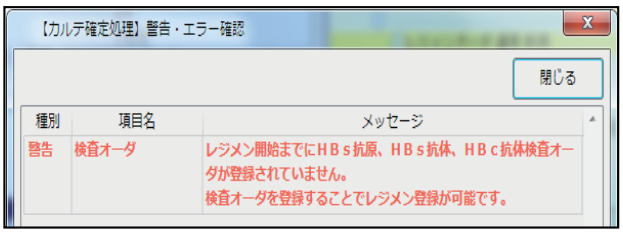
そこで、当院の癌化学療法の多くがレジメン登録されていることを利用して、電子カルテ上で癌化学療法レジメンオーダの登録時に、ガイドラインで定めてある必要なB型肝炎の検査がなされていないと、その検査を行うようにアラートが出るようにしました。また、レジメン登録時B型肝炎の必要な検査が既に行われている場合に、検査の陽性状況に応じて、HBV DNAのモニタリングや、肝臓内科への紹介といったアラートも出るようにしました。このシステム導入により、ガイドラインの網羅的な周知及びガイドラインの遂行が促進され、免疫抑制・化学療法により発症するＢ型肝炎ウイルスの再活性化予防、更には劇症化予防ができればと期待しています。

レジメンオーダ登録画面



オーダ登録
ボタン押下

アラートの一例



お知らせ 島大病院ニュース
平成27年3月発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース
2015年3月

お知らせ

検査結果の見落としを防止するための電子カルテシステムを構築しました

近頃、いくつかの医療機関において「患者の担当医が病理検査結果や放射線検査結果の確認をうっかり怠ってしまい、重大な疾患を見過ごした事例」がニュースで取り上げられています。

医師が検査結果をすべて速やかに確認することは当然ですが、医師の注意だけで検査結果の確認漏れを完全に防ぐことは容易ではありません。このため当院ではシステム改善を行って「重要な検査結果を絶対に見落とさない仕組み」を作ろうと検討を行ってきました。その結果、見落としてはいけない「重要な検査結果」が出た場合に、レントゲン検査の読影医や病理診断医の判断で担当医の電子カルテ画面にメッセージを表示し、検査をオーダーした医師へ注意喚起をするシステムを作りました。

このシステムが稼働した平成 25 年 9 月から平成 26 年 12 月末までの状況を確認した結果、注意喚起が必要となる重要な検査結果が出たすべての患者さんで、担当の医師が検査結果をきちっと確認しており、見落とし防止システムが期待どおりに機能していることが分かりました。

現在、このシステムは順調に動いていますが、今後も、このような仕組みを充実させ、大学病院、特定機能病院として、一層患者さんに信頼して頂ける安全な病院を目指し頑張っていきます。

お知らせ
島大病院ニュース

平成27年3月発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース
2015年3月

お知らせ

ビジネスマナー研修を開催します

医療従事者のみなさん!!
ご参加をお待ちしています。

当院では、社会人の一歩を踏み出す新採用者のみなさんを対象に、ビジネスマナー研修を例年、開催しています。

この研修は、日本航空株式会社のキャビンアテンダントの方に講師を依頼し接遇の基本、マナーの基本を学びます。挨拶の仕方、表情、身だしなみ、言葉遣い等、演習を通して、入職後すぐに活かせる接遇マナーとして好評を得ています。社会人としての心構えを築き、学生気分から社会人への切り替えを図ることや患者さん、職員同士、相手によい印象を与え、よい人間関係を構築するためのマナーを習得します。

今年度は、下記の日程で開催致します。他施設の医療従事者の皆様、ご一緒に接遇マナー体験しませんか？
参加ご希望の方は、下記にお申込み下さい。

日　時 平成27年 4月2日（木）15時00分～17時00分

場　所 島根大学医学部附属病院 臨床講義棟2階 臨床大講堂

講　師 キャプラン（株） キャビンアテンダント

対　象 県内の医療従事者の皆様

参加費 無料

申込み先 島根大学医学部附属病院 看護管理室
FAX 0853−20−2476
平成27年3月30日（月）迄にお申込み下さい。

「ビジネスマナー研修」参加申込み ››› 島根大学医学部附属病院 看護管理室 FAX：0853−20−2476

施設名：　　連絡先：

職　種	氏　名	職　種	氏　名
		※参加希望人数でも構いません。	
		計　　名	

お知らせ 島大病院ニュース
平成27年3月発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/